

チェルフィッチュ × 金氏徹平 新作

『消しゴム山』（劇場）『消しゴム森』（美術館）

『消しゴム山』初演：2019年10月5日（土）、6日（日） @KYOTO EXPERIMENT2019

『消しゴム森』初演：2020年2月7日（金）～16日（日）（仮） @金沢21世紀美術館



「消しゴム山」メインビジュアル ©Shota Yamauchi

人間のスケールを脱する演劇とは？

人、モノ、時間、空間、言葉が、未知のすがたで現れる

劇場版、美術館版の両バージョンに展開

コラボレーターに美術家・金氏徹平を迎え、「映像演劇」の手法も取り入れて挑む新機軸

作・演出：岡田利規

セノグラフィー：金氏徹平

出演：青柳いづみ、安藤真理、板橋優里、原田拓哉、矢澤誠、吉田庸、米川幸リオン

お問い合わせ

* 本作についてのお問い合わせ等は下記までご連絡ください。

株式会社precog（プリコグ） 【平日10:00～19:00】 担当：黄木多美子
MAIL：info@precog-jp.net TEL：03-6825-1223 FAX：03-6421-2744

作品概要

いま・ここに在る人間のためだけではない演劇は可能か？人とモノが主従関係ではなく、限りなくフラットな関係性で存在するような世界を演劇によって生み出すことはできるのだろうか？

東日本大震災で大きな被害を受けた岩手県陸前高田市では、失われた住民の暮らしを取り戻すべく、津波被害を防ぐ高台の造成工事が行われている。もとの地面から嵩上げされる高さは10メートル以上。そのための土砂は、周辺の山をその原型を留めないほど大きく切り崩すことでまかなわれている。

岡田利規は、2017年に同地を訪れ、驚異的な速度で人工的に作り変えられる風景を目の当たりにしたことをきっかけに、「人間的尺度」を疑う新作の構想を始めた。コラボレーターには、コラージュを主な手法とし、演劇的な視点を貪欲に取り込み創作の領域を拡張させる美術家・金氏徹平を迎える。また、昨年からチェルフィッチュが力を注ぐ「映像演劇」も取り入れながら、俳優の身体や言葉のありようにも新たなアプローチが試みられる。人間中心主義から逸脱する先にあらわれる風景とは。

演劇をアップデートし続けるチェルフィッチュの最新形。

劇場版『消しゴム山』・美術館版『消しゴム森』を制作

これまでも美術館やギャラリー空間に「演劇」を持ち込み、その場所がもつ潜在的なドラマ性や空間の新たな手触りを浮かび上がらせてきたチェルフィッチュ。今回は、劇場（演劇空間）と美術館（展示空間）それぞれの空間の特性やナラティブを捉え直し、ひとつの作品コンセプトをふたつの異なる空間にインストールする。また、劇場版・美術館版ともに〈映像演劇〉（本頁下記参照）を取り入れることで、作品を多層化するだけでなく、映像／空間／鑑賞者の関係性に新たなレイヤーを提示する。鑑賞者はそれぞれの空間に身を置くことで、自身と作品、そこにある時間や空間と新たな関係を結び直す。それは、「演劇」や「美術」といった領域の境界を融解させる試みでもある。

『消しゴム山』での挑戦

洗濯機が壊れたというエピソードから始まるこの作品は、人間に奉仕するモノがその機能を失ったことで、人間とモノが従来の関係性を断ち切られた先の世界を描く。それは、従来の人間から見た世界の終わりを映すと同時に、モノが人間とは無関係に存在する、あるいは人間もモノになっていく世界を描こうと試みる。人間が当たり前に思い描いてきた世界像が無効となった時、それをどう認識し、受け入れ、拒絶するのか。モノはどう振る舞うのか。それは演劇に留まらず、人間とモノと世界との新たな関係の結び方を問いかける。

想像する方法

俳優はテキストの意味通りに演じることを求められてはいない。代わりに稽古で行われているのは、俳優一人ひとりがテキストを出発点としながらも、そこから離れて自分の想像を立ち上げること。また、自らが想像するだけでなく、想像したものの方からも自らに向かい、想像が俳優から言葉を引きずり出すような関係性をつくることが目指されている。

観客に向けない演劇

演技が向けられる先は、観客ではない。俳優は舞台上の俳優、映像演劇に登場する俳優、舞台上のモノや映像上のモノなど、さまざまなレイヤーに存在するものと空間を共有しながら、さらにそこに存在しないものたちへと想像を向けていくことで、従来の目の前にいる観客のためだけになされるのではない演劇のあり方を構築しようと試みている。

モノの演劇

稽古場には、金氏から特に説明なく送られたモノたちが置かれている。見た目から用途が想像しにくいそのモノたちは、美術としても道具としてもなく、空間を占拠している。そのモノたちに囲まれ、直接関係するでもなく、俳優は存在する。モノの存在感が徐々に増していくとともに、人間とモノとの主従関係の代わりに新たな関係が立ち現れる。

シーン構成

第一部

洗濯機が壊れた一日常生活の部分的破綻によるモノとの関係の断絶と、洗濯機が活動を止めることで生まれる別の時間と空間、関係性の変容。

第二部

存在しない人間の物語—タイムマシンで未来からやってくる人間の社会への介入の是非を巡る会議。公園に置かれたタイムマシンらしき物体を見る存在しない予定の人間。

第三部

人がいない世界での演劇—人間とモノの境界はなくなり、モノだけが存在する時間が空間を占めていく。

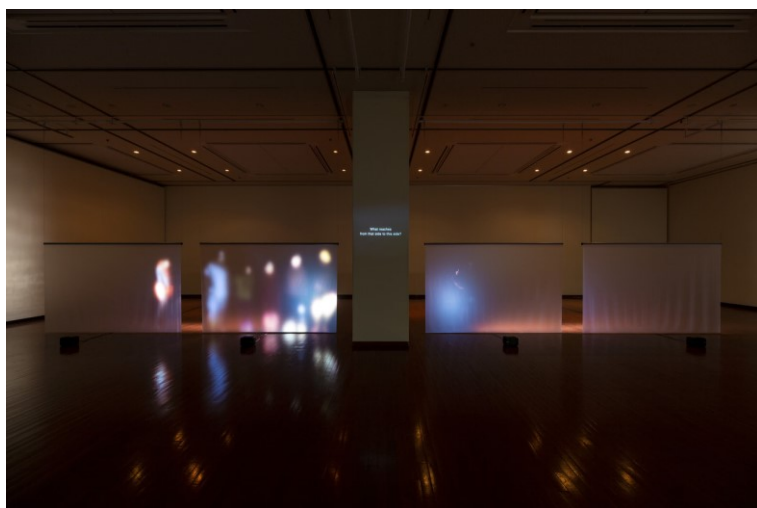


(リハーサルの様子より)

映像演劇について

〈映像演劇〉とは、近年、岡田が舞台映像デザイナーの山田晋平と共に取り組み始めた新しい形式の演劇であり、投影された映像が人の感覚に引き起こす作用によって展示の空間を上演の空間へと変容させる試みである。岡田は 〈映像演劇〉 に、「演劇」というメディアそのものの潜在的な可能性を拡張させる大きな可能性を見出している。観る人が映像の中の人物（役者）を凝視するしかたや、実物大で投影された人物の映像がもつ特有の存在感といった感覚的な経験をもたらし特性を、演劇的と捉えている。演劇という形式の特性のなかには、映像というメディアによってより生かされ、はっきりとしていくものがある。その作用を用いて、映像による演劇をつくる。それを今のところ、〈映像演劇〉と呼んでいる。

2018年、熊本市現代美術館にて『渚・臉・カーテン チェルフィッチュの 〈映像演劇〉』を開催。映像によって演劇の本質を問い直すプロジェクトとして話題を呼んだ。



The Fiction Over the Curtains



働き者ではないっぽい3人のポートレート

(※ともに『渚・臉・カーテン チェルフィッチュの 〈映像演劇〉』より)

ステートメント

岡田利規

直接の届け先が人間の観客ではない演劇。モノとの演劇。用いられている尺度が人間のそれではないのかもしれない演劇。観客との関係に人間でも人間のためのものでもない何かが介在している演劇。人間が描かれる対象の中心でも特別な存在でもないことをはっきりやる演劇。モノのための演劇。モノの演劇。人間ではないものによってその世界が描かれているのかもしれない演劇。人間の人間による人間のための演劇というのからさらに先へとその描く対象の梢、機能の梢を伸ばした演劇。

金氏徹平

演劇において、ここではない場所、いまではない時間、と言う時に、その範囲を全く想像もつかないようなところまで拡張することが可能なのか？自分に向けられていないと感じるモノとどのように同じ空間にすることができるか？自ら自分を半分消してしまうことができるのか？

モノはそれぞれに固有の時間を持っていて、人間はそれらとの間に、関心/無関心、寛容/不寛容を使って関係/無関係を作らなければならない。ある意味での劇場という仮想空間に構築する新しいランドアートのようなものを構想している。もしくは“映像演劇”に対する“彫刻演劇”への展開と言えるかもしれない。

コラボレーション

岡田と金氏は、これまでも様々な形でコラボレーションを行ない、それぞれの領域を拡張してきた。あうるすぽっとプロデュース『家電のように解り合えない』（2011）、『わかったさんのクッキー』（2015）では金氏が舞台美術を手がけ、KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 2017オープニングアクトとなった『tower (THEATER)』（2017）では、岡田が一部テキストを執筆。

『消しゴム山』『消しゴム森』ではこのコラボレーションをさらに深いレベルへ押し進め、互いの新機軸をぶつけ合う。



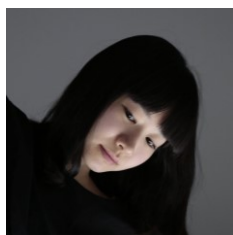
『家電のように解り合えない』（2011）
撮影：青木司



『わかったさんのクッキー』（2015）
撮影：前澤秀登



『tower (THEATER)』（2017）



©篠山紀信

青柳いづみ（あおやぎ いづみ）

女優。08年「三月の5日間」ザルツブルグ公演よりチェルフィッチュに参加。07年よりマームとジプシーに参加、以降両劇団を平行し国内外で活動。近年の主な出演作にチェルフィッチュ「部屋に流れる時間の旅」、金氏徹平「TOWER」、藤田貴大演出「みえるわ」（小説家・川上未映子との共作）、「CITY」など。また、音楽家・青葉市子とのユニットやナレーション、文筆活動なども行う。筑摩書房より漫画家・今日マチ子との共著「いづみさん」が発売中。



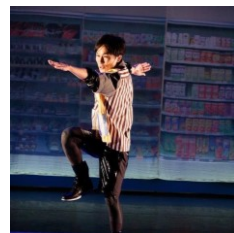
矢澤誠（やざわ まこと）

1972年福島県生まれ。NODA・MAP、宇宙レコード、ニブロール、ミクニヤナイハラプロジェクト、カムカムミニキーナ、安藤洋子プロジェクト、遊園地再生事業団、カンパニーデラシネラ、オフブロードウェイミュージカル『リトルショップ・オブ・ホラーズ』などに出演。チェルフィッチュには『わたしたちは無傷な別人である』、『地面と床』、『スーパープレミアムソフトWバニラリッチ』に出演。



安藤真理（あんどう まり）

2006年伊丹アイホールにて岡田利規ワークショップ&パフォーマンス「奇妙さ」に参加。以降2008年『フリータイム』、2009年『記憶の部屋について』（金沢21世紀美術館「愛についての100の物語」）、『ホットペッパー、クーラー、そしてお別れの挨拶』、2011年『家電のように解りあえない』、2016年『部屋に流れる時間の旅』他に出演。



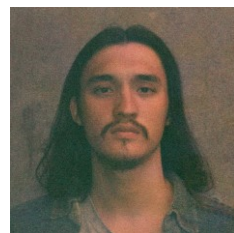
吉田庸（よしだ よう）

1987年大阪府生まれ。青年団所属。チェルフィッチュは『部屋に流れる時間の旅』『渚・臉・カーテン』『スーパープレミアムソフトWバリラリッチソリッド』に続く4度目の出演。ホエイ、モメラス、やなぎみわ演劇プロジェクト、わっしょいハウス、鳥公園などにも出演。NHK『いだてん〜東京オリムピック噺〜』第2部よりうつつら出演中。



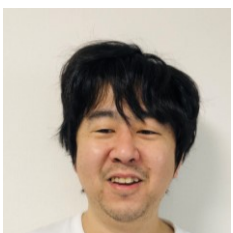
板橋優里（いたばし ゆり）

宮城県生まれ。尚美学園大学に入学し演劇を始める。大学卒業後、小田尚稔の演劇、ウンゲツィーファ、アナログスイッチ等に出演。近年ではチェルフィッチュ『三月の5日間』リクリエーションに出演。



米川幸リオン（よねかわ こうりおん）

1993年三重県生まれ。父がイギリス、母が日本、のニッポン人。京都造形芸術大学映画学科俳優コースと映画美学校アクターズコースを卒業。主な出演作品は、チェルフィッチュ『三月の5日間』リクリエーション、小森はるか・瀬尾夏美『二重のまち／交代地のうたを編む』、ミヤギフトシ『感光』、など。また、伯楽-hakuraku-のメンバーとして、岩手県住田町での自主映画の企画〜上映までも行なっている。



原田 拓哉（はらだ たくや）

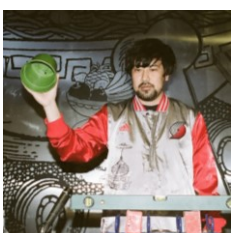
1981年大阪府生まれ。京都嵯峨芸術短期大学卒業。美術家。グループ展 2007年『Uchu』（gallery Den 58）、2008年『one room3』（元立誠小学校）、2013年『What(n)ever』（コーポ北加賀屋）、2015年『DAYDREAM with GRAVITY』（ホテルアンテルーム京都）



©宇壽山貴久子

岡田利規（おかだ としき）

1973年横浜生まれ、熊本在住。演劇作家/小説家/チェルフィッチュ主宰。活動は従来の演劇の概念を覆すとみなされ国内外で注目される。2005年『三月の5日間』で第49回岸田國士戯曲賞を受賞。同年7月『クーラー』でTOYOTA CHOREOGRAPHY AWARD2005一次代を担う振付家の発掘〜最終選考会に出場。2007年デビュー小説集『わたしたちに許された特別な時間の終わり』を新潮社より発表、翌年第二回大江健三郎賞受賞。12年より岸田國士戯曲賞の審査員を務める。13年には初の演劇論集『遊行変形していくための演劇論』、14年には戯曲集『現在地』を河出書房新社より刊行。16年よりドイツ有数の公立劇場ミュンヘン・カンマーシプーレのレパートリー作品演出を4シーズンにわたって務める。



©川島小鳥

金氏徹平（かねうじ てっぺい）

1978年京都府生まれ、京都市在住。2001年京都市立芸術大学在籍中、ロイヤル・カレッジ・オブ・アート（ロンドン）に交換留学。2003年京都市立芸術大学大学院彫刻専攻修了。現在、同大学彫刻専攻准教授。日常の事物を収集し、コラージュ的手法を用いて作品を制作。彫刻、絵画、映像、写真など表現形態は多岐にわたり、一貫して物質とイメージの関係を顕在化する造形システムの考案を探索。個展「金氏徹平のメルカトル・メンブレン」（丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、2016）、「四角い液体、メタリックなメモリー」（京都芸術センター、2015）、「Towering Something」（ユーレンス現代美術センター、2013）、「溶け出す都市、空白の森」（横浜美術、2009）など国内外での展覧会のほか、舞台美術や装丁も多数。あうるスポットプロデュース「家電のように解り合えない」（2011）、KAATキッズ・プログラム2015おいしいおかしいおしばい「わかったさんのクッキー」（2015-2016）での舞台美術をはじめ、自身の映像作品を舞台化した「TOWER」（2017）では演出を手掛ける。

『消しゴム山』

日程 | 2019 年10月5日（土）～6日（日）

日時 |

10月5日（土）18:30

10月6日（日）14:00★ / 19:30

上演時間 | 100分（予定）

日英字幕あり

会場 | ロームシアター京都 サウスホール

★タッチツアー、ポストパフォーマンストーク

10/6（日）14:00の上演前にタッチツアーを開催！

障害のある方、子どもや年配の方などを優先に、
開演前に舞台美術を中心に今回の公演のコンセプトを
感じることができる「タッチツアー」を開催致します。

※詳細は決まり次第WEBサイト等で告知予定

チケット

発売日 | 2019年7月26日（金）11:00

料金（指定席・税込） |

一般 前売 4,000円／当日4,500円

25歳以下 前売 3,000円／当日3,500円

高校生以下 前売／当日1,000円

ベア 前売7,500円（前売販売のみ）

KYOTO EXPERIMENTウェブサイト：<https://kyoto-ex.jp>

『消しゴム森』

日程 | 2020 年 2 月 7 日（金）～ 16 日（日）（仮）

会場 | 金沢 21 世紀美術館 展示室7～12, 14 ほか

取り扱い |

KYOTO EXPERIMENT チケットセンター

(11:00-19:00、日曜・祝日休[フェスティバル開催期間中は無休])

オンライン | <https://kyoto-ex.jp>[セブン-イレブン引取]

電話予約 | 075-213-0820[セブン-イレブン引取]

窓口 | 京都市中京区少将井町 229-2 第 7 長谷ビル 6F

ロームシアター京都チケットカウンター(10:00-19:00、無休)

オンライン | <https://www.e-get.jp/kyoto/pt/>[要事前登録]

電話予約 | 075-746-3201

窓口 | 京都市左京区岡崎最勝寺町 13

チケットぴあ

オンライン | <http://t.pia.jp>

電話予約 | 0570-02-9999

イープラス

オンライン | <http://eplus.jp/kyoto-ex>

ファミリーマート店内 Fami ポートでも直接購入可能

その他、各会場でも上演プログラムのチケット取扱いあり。

金沢21世紀美術館ウェブサイト：<https://www.kanazawa21.jp/>

クレジット

作・演出：岡田利規
セノグラフィー：金氏徹平
出演：青柳いづみ、安藤真理、板橋優里、原田拓哉、矢澤誠、
吉田庸、米川幸リオン
衣裳：藤谷香子（FAIFAI）
照明：高田政義（RYU）
音響：中原楽（ルフトワーク）
映像：山田晋平
技術監督：鈴木康郎
舞台監督：湯山千景
演出助手：和田ながら
プロデューサー：黄木多美子（precog）
アソシエイト・プロデューサー：田中みゆき
宣伝美術：山内祥太
英語字幕翻訳：オガワアヤ

製作：一般社団法人チェルフィッチュ

共同製作：

〈消しゴム山〉KYOTO EXPERIMENT、Wiener Festwochen、
Festival d'Automne à Paris、Künstlerhaus Mousonturm Frankfurt

〈消しゴム森〉金沢21世紀美術館

企画制作：株式会社precog

協力：コネリングスタディ／山吹ファクトリー、急な坂スタジオ、
京都市立芸術大学
京都芸術センター制作支援事業

本プロジェクトは、『消しゴム山』（初演：2019年10月KYOTO
EXPERIMENT）、『消しゴム森』（初演：2020年2月金沢21世紀美
術館）の両バージョンからなる。

『消しゴム山』

主催：京都国際舞台芸術祭実行委員会

〔京都市、ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振
興財団)、京都芸術センター(公益財団法人京都市芸術文化協会)、京
都造形芸術大学 舞台芸術研究センター〕

助成：令和元年度文化庁文化芸術振興費補助金(国際芸術交流支援事
業)、独立行政法人日本芸術文化振興会、一般財団法人地域創造、公
益社団法人企業メセナ協議会 2021 芸術・文化による社会創造ファ
ンド、公益財団法人セゾン文化財団

『消しゴム森』

主催：金沢21世紀美術館〔公益財団法人金沢芸術創造財団〕

助成：独立行政法人日本芸術文化振興会 劇場・音楽堂等機能強化
推進事業

